

平成 24 年仙台市の人口動向

人口の動向は、自然動態（出生及び死亡の動き）及び社会動態（転入及び転出の動き）によって説明されます。この特集は、平成 24 年 1 年間の仙台市の人口動向について、社会動態を中心に報告するものです。

- ・ 平成 24 年 7 月 9 日に改正住民基本台帳法が施行され、外国人住民にも住民票が作成されることになりました。これに伴い、住民基本台帳に基づく同日以降の集計については、外国人住民人口を含めています。それ以前の集計については、改正前住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく人口から集計しています。
- ・ そのため、6～12 ページの「住民基本台帳人口による社会動態」及び統計表第 2 表～ 4 表は、平成 23 年以前の集計とは比較が行えませんので、ご留意願います。

利用上の注意

- ・ 本報告書で用いた地域区分は次のとおりです。

仙台都市圏内の他市町村：塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、大衡村

北海道地方：北海道

東北地方：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
東北 5 県は、東北地方から宮城県を除いた地域

関東地方：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

東京圏：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中部地方：新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県

近畿地方：三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国地方：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国地方：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州地方：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※なお、本文中にある「その他の地方」は、特にことわりのない場合、上記のうち東北地方と東京圏を除いた地域をいいます。

用語の説明

- ・ 登録人口 = 住民基本台帳人口 + 外国人登録人口

なお、住民基本台帳法の改正により、平成 24 年 7 月 9 日以降の登録人口は、同法の日本人住民人口と外国人住民人口の合計となります。

- ・ 人口増加数 = 自然増加数 + 社会増加数
- ・ 自然増加数 = 出生数 - 死亡数
- ・ 社会増加数 = 転入数 - 転出数 + その他の増加数（職権記載・消除、国籍取得・喪失、転出取消等）

解 説

I 登録人口による人口動向

1 概 要

平成24年末の登録人口は104万2,686人でした。

また、平成24年1年間の人口増加数は1万627人となり、平成23年の人口増加数5,569人に比べ5,058人増加となっています。その内訳は、自然増加数が1,570人（対前年1,533人の増加）、社会増加数が9,057人（対前年3,525人の増加）となりました。

（図1、表1、統計表第1表）

図1 人口増加数の推移（平成15年～24年）

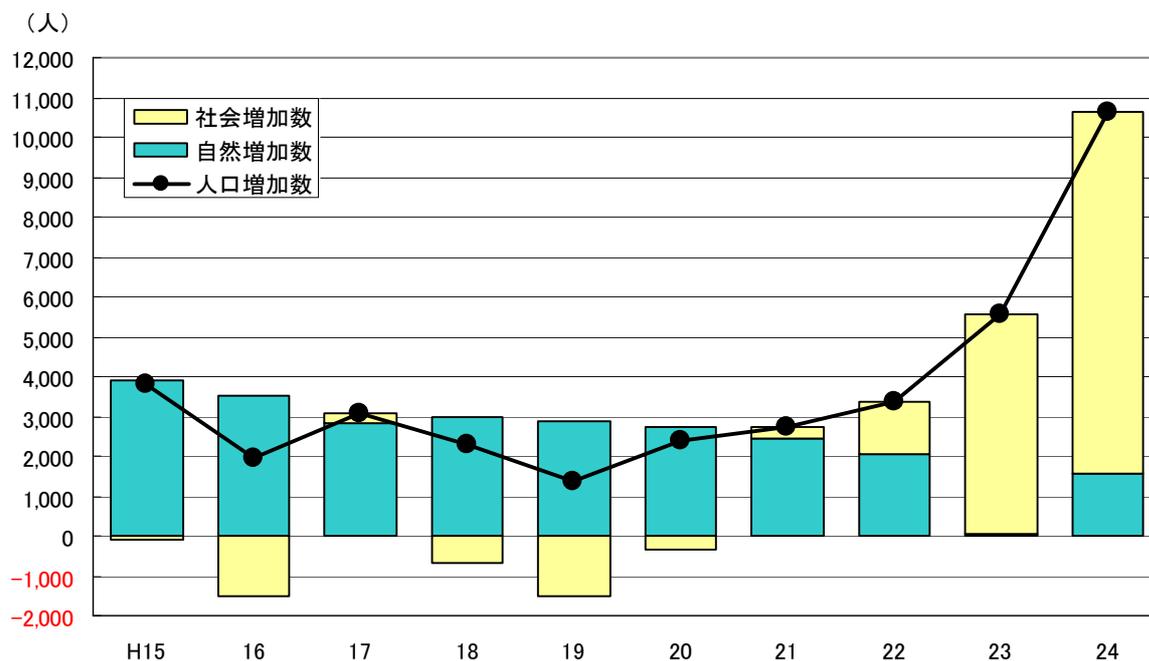


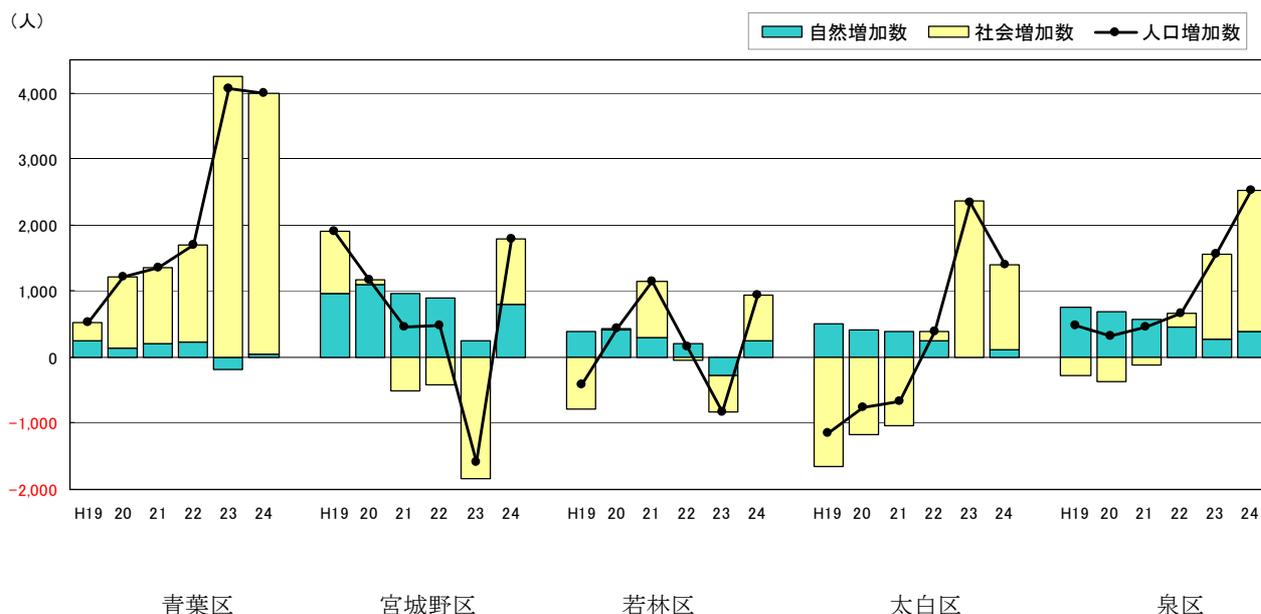
表1 登録人口の推移—全市、区（平成19年～24年）

年次	各年末（単位：人）							
	仙台市	青葉区	うち 宮城総合 支所	宮城野区	若林区	太白区	うち 秋保総合 支所	泉区
平成19年	1,017,967	275,377	66,499	183,682	127,466	220,628	4,674	210,814
20	1,020,376	276,603	67,572	184,863	127,906	219,871	4,609	211,133
21	1,023,120	277,952	68,260	185,316	129,042	219,210	4,541	211,600
22	1,026,490	279,641	68,758	185,789	129,202	219,602	4,404	212,256
23	1,032,059	283,703	70,237	184,199	128,380	221,952	4,352	213,825
24	1,042,686	287,695	70,950	185,986	129,321	223,342	4,304	216,342

区別の動向をみると、全区で前年より人口が増加しており、人口増加数が最も多かったのは青葉区の3,992人（自然増加数39人、社会増加数3,953人）で、以下、泉区の2,517人（自然増加数382人、社会増加数2,135人）、宮城野区の1,787人（自然増加数792人、社会増加数995人）、太白区の1,390人（自然増加数105人、社会増加数1,285人）、若林区の941人（自然増加数252人、社会増加数689人）でした。

（図2、表1、統計表第1表）

図2 人口増加数の推移一区（平成19～24年）



2 自然動態

平成24年の出生数は前年より585人増加して9,482人、死亡数は前年より948人減少して7,912人となったことから、自然増加数は1,570人となり、平成23年の37人に比べ1,533人増加しました。

出生数はここ数年ほぼ横ばいで推移しています。また、死亡数は増加の傾向にあったところ、平成23年は大幅に増加しましたが、平成24年はやや減少しました。

区別の動向をみると、出生数は、すべての区において前年より増加しています。死亡数は、青葉区を除く4区で前年より減少しました。

自然増加数が最も多かったのは宮城野区の792人（出生数2,125人、死亡数1,333人）で、以下、泉区の382人（出生数1,767人、死亡数1,385人）、若林区の252人（出生数1,226人、死亡数974人）、太白区の105人（出生数1,914人、死亡数1,809人）、青葉区の39人（出生数2,450人、死亡数2,411人）でした。

（図3、4、統計表第1表）

図3 自然動態の推移—全市（平成15年～24年）

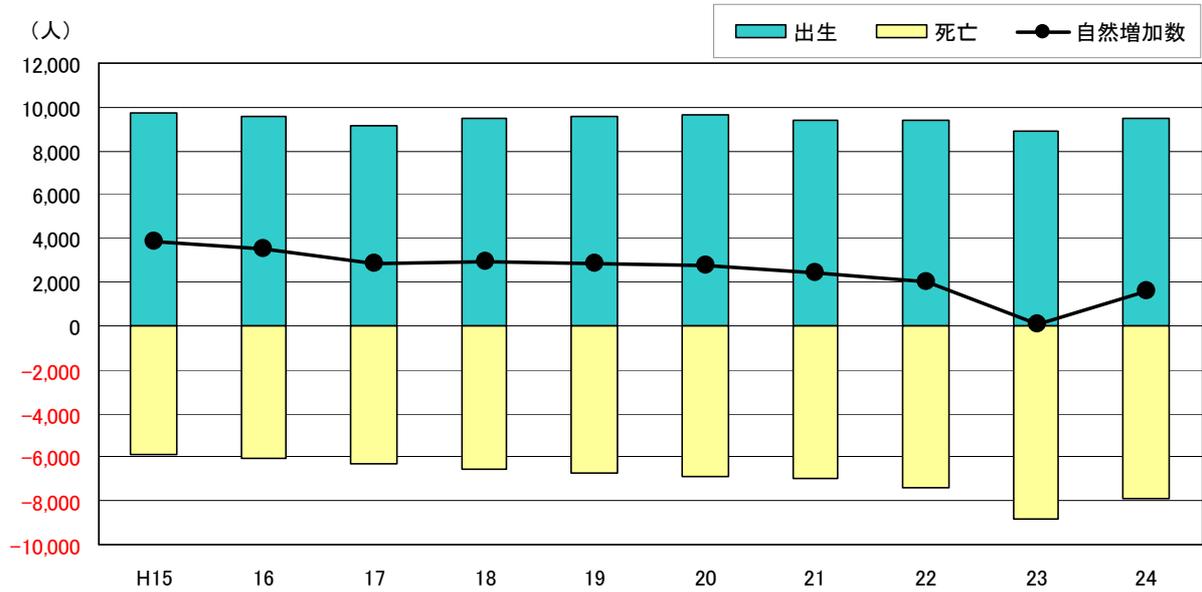
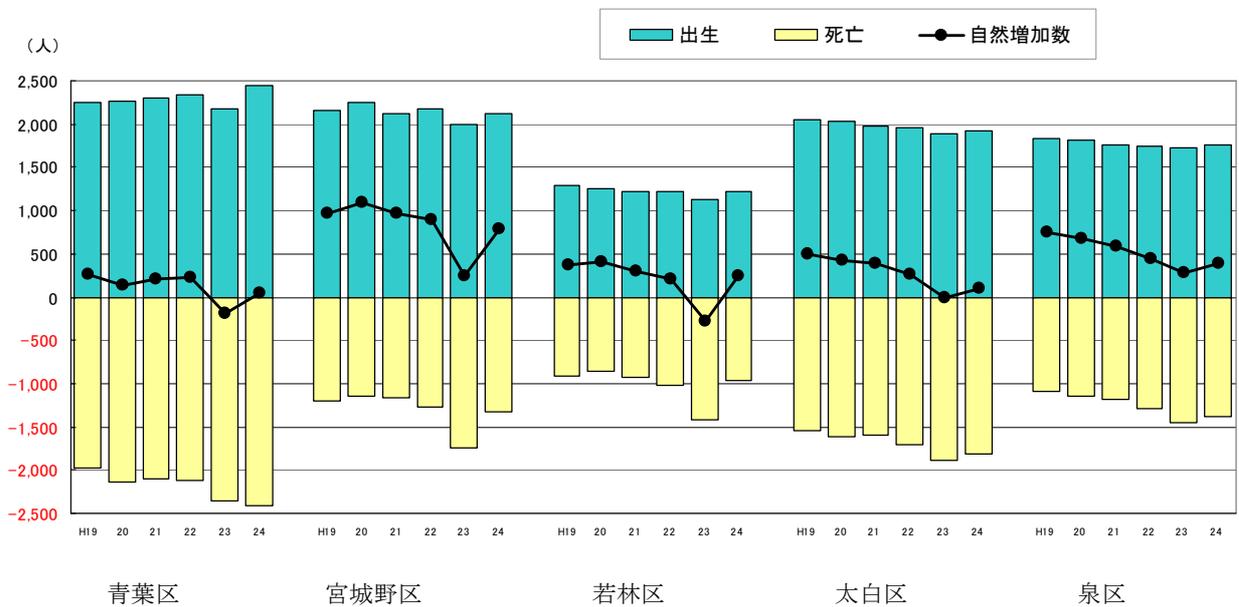


図4 自然動態の推移—区（平成19年～24年）



3 社会動態

平成24年の転入数は7万2,424人で前年より4,011人の減少、転出数は6万2,958人と前年より8,108人の減少、この結果、転入・転出数の差にその他増加数△409人を加えた社会増加数は9,057人となりました。

区別の動向をみると、青葉区、太白区、泉区で県内移動、県外・国外との移動がともに転入超過となりました。宮城野区、若林区では県内移動が転出超過、県外・国外との移動が転入超過となりました。

社会増加数が最も多かったのは青葉区の3,953人(転入数2万3,207人、転出数1万8,739人、その他増加数△515人)で、以下、泉区の2,135人(転入数1万3,412人、転出数1万1,289人、その他増加数12人)、太白区の1,285人(転入数1万2,920人、転出数1万1,612人、その他増加数△23人)、宮城野区の995人(転入数1万3,876人、転出数1万2,943人、その他増加数62人)、若林区の689人(転入数9,009人、転出数8,375人、その他増加数55人)でした。

(図5、統計表第1表)

図5 社会増加数の推移—全市、区（平成19年～24年）

